

【様式】

平成28年度 学校マネジメントシート

学校名（ 四日市西高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		自主・自律をモットーに、地域から信頼される活力ある進学校を目指す。
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自ら学ぶ喜び、わかる楽しさを実感できる生徒</li> <li>・ 生徒一人ひとりの持つ力を伸ばし、それぞれの目指す進路を実現できる生徒</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育の専門集団として力を高め、協働して活力ある教育活動を創造する教職員</li> <li>・ 「信頼」を軸に、生徒、保護者をはじめ全ての関係者との絆を深め、安全で安心して学べる教育環境を創造する教職員</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	生徒は学習指導などを通して、粘り強く進路実現をしたいと望んでいるが、やや受け身の傾向があり、自分からは積極的な行動に移せない面がある。また、保護者からは、様々な情報提供を受けて、子どもの成長を実感し、本人の望む進路選択をさせたいと望んでいる。さらに、地域からは地元の中学生が入学したいと思う、頼れる学校であってほしいと期待されている。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	地域の保幼小中からは、模範となる高校生としての行動を期待されている。西高で大学をはじめとする上級学校へ円滑に接続できる確かな学力や生きる力をつける指導を継続的に行い、個々が希望する自己実現を目指す。	地域の学校として、本校の教育活動に理解・支援をしていただくとともに、忌憚のない意見や提言をしていただきたい。また、小中高の一層の連携を深め、地域全体で児童生徒を育む取組を進める。
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○学習指導において、授業力の向上について「授業交流」や「生徒を対象としたアンケート」を実施し、改善に努めていることは評価できる。また、1、2年次の週課題の取組により学習習慣の定着と基礎力の向上において高く評価できる。</p> <p>○進路指導において、状況に応じて教員が親身に進路相談を行い、きめ細かく行き届いた指導を行っていることは評価できる。また、「OBと語る会」「卒業生と語る会」「生徒の学習意欲向上・勤労観育成のための講演」「職員研修」等の取組は高く評価できる。</p> <p>○生徒指導において、学校生活の楽しさ、学習の大切さを理解し、欠席者が減少する中、理由もちの遅刻者数が増加しているのは残念である。「時間を大切にする」、「時間を守る」という指導に転換する必要もある。</p> <p>○生徒代表との懇談から、一部の生徒ではあるが、学習指導と進路希望の間での教員と生徒の意識の差が微妙にあるが、繰り返し行う面談やガイダンスを通して、生徒のモチベーションを高め、個々の将来実現へとつなげている。</p>	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>本校は本年度で創立41年目となる普通科高校である。これまでに卒業生は14,844名に及び、地元四日市市をはじめ全国で活躍している。平成7年度に比較文化・歴史コースを新設し、続いて平成15年4月には数理情報コースを新設することで、普通科の中から、さらに学びの視野を広げ、難関とされる大学への進学を念頭におきつつ自己実現を図りたいとする地域の要望に応えることとした。現在、前期選抜でコース定員の25%を募集し、残り75%について、平成25年度入学者選抜から、両コースをくくり募集とした。創立以来年々教育活動を充実させて現在に至っているが、本校への近年の志願状況は全体として1.2倍前後で推移している。また、最寄りの各中学校の卒業生に占める本校への入学者の割合は、それぞれ約12%前後の状況である。このことから、本校の教育活動は、地元地域から一定の評価と信頼を得ていると判断できる。また本校へ通う生徒はその70%が四日市市、特に市の中西部近鉄線沿線に集中しており、近隣の三重郡菰野町が12.5%、鈴鹿市が12.8%となっていることから、地域性の強い学校であるといえる。</p>
	学校運営等	<p>本校は、常時1千名余の生徒・教職員が生活する高校として、土地合計約59千㎡、建物合計約15千㎡に及ぶ敷地と施設・設備を擁している。これらをフルに活用し、平素より安全で安心して学べる教育環境づくりに努めている。併せて地域貢献の一環として、学校体育施設開放事業を実施し、地域住民をはじめ、広く県民に開放している。また、大規模地震等災害に備え、四日市市の指定避難所として地域住民の防災避難訓練等を受け入れている。</p>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○ 学習指導</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 質の高い授業の創造に努め、生徒が、自ら学ぶ喜び、わかる楽しさを実感できるよう授業の充実を図ります。</li> <li>② 教科マネジメントを確立することにより、学びの仕組みを十分に機能させ、基礎学力の定着と自ら設定した進路希望を実現するための、確かな学力の定着を図ります。</li> </ol> <p>○ 生徒・生活指導</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 生徒の自己指導能力向上を図ります。生徒が自主的に判断、行動し積極的に自他をいかしていくことができるよう指導援助します。</li> <li>② 授業規律、生活規律の指導を通して、生徒の社会的な資質や能力・態度の育成を図ります。</li> <li>③ 安全安心な環境整備づくりに努めるとともに、生徒の自己防衛能力向上を図ります。</li> <li>④ 学校行事・クラブ活動・生徒会活動・ホームルーム活動を充実させます。</li> </ol> <p>○ 進路指導</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 生徒一人ひとりが、将来の目標の設定とその実現に向けて自ら考え行動し、粘り強く努力するよう育成します。</li> <li>② 進路関連データの収集・解析・管理を組織的に行い、有効に活用する体制を構築します</li> </ol> <p>○ 人権教育</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① これまでの人権・同和教育の成果をふまえ「信頼」を軸に、人権感覚溢れる学校づくりをします。</li> <li>② いじめ防止対策基本方針を踏まえ、3年間を見通した系統的な人権教育の指導体制を構築します。</li> </ol> <p>○ 保健管理</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 生徒が、生涯を通して健康な生活を送れるよう、自ら学ぶ姿勢と自己管理の行動化を図るとともに、危機を未然に防ぐ体制を構築し、安全で安心して学べる学校づくりをします。</li> </ol>
------	---

○ 学校運営全般

- ① 急速に進むと予想される高大接続改革等の教育改革に対応することを念頭に、学習の仕組みや授業の在り方について、本校独自のシステム構築に向けて研究開発をします。
- ② 教育活動全般にわたり効果的なマネジメントに努め、その結果をもとに学校関係者評価活動に取り組むことで、学校マネジメントの質を高め、教育活動の向上に努めます。
- ③ 教職員が対話を通してお互いの関係づくりに努め、支え協力し合うことを通して組織能力を高め、やり甲斐を持って教育活動に邁進できる満足度の高い学校づくりをします。
- ④ 過重労働の防止等、教職員の総勤務時間の縮減に努め、健康管理と健康維持の取組を強化します。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 学習指導	<p>(1) 継続して授業力の向上に努めるとともに、今後の教育改革の動向をふまえ、生徒が主体的、協働的に学ぶ指導の在り方について研究を深めます。</p> <p>① 年2回の「授業交流」を実施し、授業改善や指導力の向上について協議・研究する場を設定します。</p> <p>② 年2回、生徒に「授業アンケート」をし、授業についての生徒自身の自己評価と教員自身の振り返りを行い、結果をもとに授業の質を高める取組につなげます。</p> <p>(2) 家庭学習定着支援課題(週課題)に継続して取り組みます。</p> <p>① 教科、学年と連携し、英語・数学・国語について計画的に実施します。</p> <p>② 課題提出率90%以上を維持しつつ、学力の向上につながるよう、内容、評価、事後指導等について検討を深めます。</p> <p>(3) 生徒が最も適切な科目選択ができるように、指導方針や指導方法について教科、学年団、進路指導部が連携して継続的に検討します。</p> <p>① 1学年で文理選択意識調査を早期に実施します。</p> <p>(4) 学習ガイダンスに必要なツールを整えることで、生徒の自ら学習に向かう姿勢を確かなものにします。</p> <p>① シラバスとそのダイジェスト版を整備し、適切な時期に活用配布します。</p> <p>(5) 教科会議において授業内容や進度、考査等を適切に管理</p>	<p>・2回実施 意見交換等による気づきから授業改善とスキルアップにつなげた</p> <p>・2回実施 アンケートの実施により生徒自身の反省と教員の授業内容の振り返りにつなげた</p> <p>・各教科10回/学期</p> <p>・提出率90%以上を維持</p> <p>・7月実施</p> <p>・4月配布</p>	

<p>2 生徒指導</p>	<p>するとともに、学習指導における諸問題について検討し、対策を立案します。</p> <p>① 教科会議を月 1 回以上開催し、その機能を高めます。</p> <p>(6) 生徒一人ひとりの学習状況を把握し、時期を逸することなく「課題・補習・面談」を実施するよう努めます。</p> <p>① 生徒の「学習実態調査」を定期考査毎に実施します。</p> <p>② 必要に応じ日常的に生徒との面談を行います。</p> <p>③ 必要に応じ適切に学習課題や補講を設定します。</p> <p>(1) 状況に応じて、どのような行動が適切か、生徒が自分で考えて、判断し、実行する能力を育成します。</p> <p>① 生徒に自己存在感を持たせるために、一人ひとりに丁寧に対応します。また、教員間での情報共有を密にします。</p> <p>② 教員と生徒の共感的な人間関係づくりに努めます。全校集会・学年集会など様々な場面で、具体的且つ分かりやすく生徒に語りかけ、考えさせる指導を行います。</p> <p>(2) 規範意識やマナー向上の指導を通して、その意味や社会の一員としての在り方についての自覚を促します。</p> <p>① 登校遅刻・授業遅刻防止の取組により、生徒の「時間を守る」意識を高めます。登校遅刻を過去 3 年間の平均比 5 % 減を目指します。</p> <p>② 定例の頭髪・服装指導と併せて「服装指導の日」を設定し、日常的に指導を行います。特別な指導や支援が必要な生徒への対応について理解を深め、指導力を高めます。</p> <p>(3) 安全で安心な教育環境の整備に努めるとともに、生徒の安全に対する意識を高めます。</p> <p>① 登下校時の危険個所に立ち、全教員で登下校指導を行います。</p> <p>② 生徒の登下校時のマナーや交通法規の順守について意識を高める取組を実施します。また、地域に支えられていることの自覚を促します。</p> <p>③ 各種安全教育講習を実施します。</p> <p>④ 環境美化に対する意識を高める機会を設定し、快適に学べる環境を維持します。日常の清掃活動の徹底と、学校環境デー、地域クリーン活動、奉仕活動を設定します。</p>	<p>・各教科 1～2 回 / 月 開催し、課題等について検討、充実を図った</p> <p>・5 回実施</p> <p>・ほぼ達成</p> <p>・ほぼ達成</p> <p>・各学年、必要に応じて各分掌と連携共有しながら対応できた</p> <p>・具体的な例を示しながら、より分かり易い内容とし、一人ひとりに気付きと考える機会をもった</p> <p>・55% 減を達成</p> <p>・頭髪・服装指導 1 回 / 2 月</p> <p>・服装指導の日 1 回 / 月 実施</p> <p>特に支援が必要な生徒には継続的に指導を実施</p> <p>・毎朝 3カ所において指導</p> <p>・SHR や全校集会で規範意識の定着を図った</p> <p>・携帯電話(スマートフォン)のマナー講習、薬物乱用防止講座、交通安全講座を実施</p> <p>・校内外の美化活動に係る企画を通年実施</p>	
---------------	--	---	--

<p>3特別活動等</p>	<p>(1) 生徒会活動を活性化させ、学校行事を生徒主体で取り組めるよう継続して指導します</p> <p>① 執行部活動の在り方について検討を加え、行事の準備が円滑に進む態勢を作ります。</p> <p>(2) 信頼できる人間関係の構築を軸とする質の高いクラブ活動に継続して取り組みます。</p> <p>① クラブ活動掲示板の活用を促進し、選択のミスマッチや情報の滞留を防ぎます。</p>	<p>・生徒主体で行事が実施できた</p>	
<p>4進路指導</p>	<p>(1) 学年集会、進路ガイダンス等日常生活のあらゆる場面で、生徒の進路希望実現に向けた支援と指導を継続的にを行います。</p> <p>① 生徒との面談の機会を増やし生徒理解を深めます。</p> <p>② クラス担任を軸に、教科担任、クラブ顧問、生徒指導、教育相談等関係者の情報交換の機会を増やし、密に連携します。</p> <p>③ 進路ガイダンス、進路講話の質を高め、生徒の進路意識の向上につなげます。</p> <p>④ 進路情報を効果的に伝える方策を検討し、保護者が子供と一緒に考え、適切に支援や判断ができるよう取り組みます。</p> <p>⑤ 希望する進路の実現度80%以上をめざします。</p> <p>(2) 考査や模擬試験の分析、検証の結果をもとにして、生徒の進路希望が適切に設定できるよう支援します。</p> <p>① 教科会は、模擬試験や考査の結果について検証し、それをもとに指導計画を立て、取り組むことで指導力の向上を図ります。</p> <p>② 進路指導部は、模擬試験や基礎学力テストの分析会を企画することで、教員がそれぞれ関係する担</p>	<p>・4月、7月、9月に定期面談を行い、必要に応じ面談を繰り返し行った</p> <p>・一人ひとりについて、進路検討会を1回/学期実施し、教職員で情報共有</p> <p>・進路指導部講話を各学年、学期毎に実施し、文理選択や科目登録、進路選択等をそれぞれに考える機会をもち進路を意識した選択へとつなげた</p> <p>・保護者や各学年生徒に行う進路ガイダンスの内容や講師選択を見直すことで、意識の向上を図った</p> <p>・学年進路通信の発行1回/月により、家庭と学校の情報共有を図った</p> <p>・2年生の夏季特別学習会では進路実現に向けた意識の向上が図れた</p> <p>・進路指導部と学年の連携により、幾度となく生徒面談を繰り返すことで、進路指導に対する満足度94.8%を達成</p> <p>・教科会1回/月の中で検証、指導計画を行い、指導を実施</p> <p>・年2回外部講師による模擬試験の分析及び日常の課題について検討会を実施</p>	

	<p>当・学年毎の弱み、強みの把握と今後の指導改善が行えるように支援します。</p> <p>(3) 生徒の入学時から卒業までの成績推移等、個別データを関係教員間で共有できる仕組みを進路指導部が進路検討会などを通じて構築し、担任、教科担任、部活動顧問等それぞれの関わりのなかで生徒の第一希望の実現に向けた指導力を高めます。</p>	<p>し、指導力のスキルアップと指導改善を図った</p> <p>・進路検討会1～2/ 学期の実施により教職員の共有に努めた</p> <p>・全ての教科科目において実施した</p> <p>・常に検証に努めた</p> <p>・2月に実施</p> <p>・学年との情報共有を深めることで、家庭との協力が強くなった</p> <p>・2回/年の定期点検と日常的な気配りにより、施設設備の安全維持に努めた</p>
5人権教育	<p>(1) 教職員は「人権教育はすべての教育活動の前提である」という認識に立って行動します。</p> <p>(2) いじめ防止対策基本方針をふまえ、3年間を見通した体系的な人権教育の指導体制を構築し、全教職員が協力して取り組みます。</p> <p>① 人権教育推進の指導計画を見直します。</p> <p>② 人権問題学習の公開に向けて取り組みます。</p>	
6保健管理	<p>(1) 生徒の健康状況を継続的に把握し、その情報を関係教員間で共有するとともに、家庭との連携を深めます。</p> <p>(2) 校内安全点検を実施し。危機を予測し継続的に改善に努め事故を未然に防ぎます。</p> <p>① 校内安全点検を年2回以上実施します。</p>	

### 改善課題

- ・進路実現に向けたガイダンスの充実と生徒の意識向上
- ・生徒の学力の定着、向上に向けた学習方法の改善
- ・各種データや情報の整備と活用方法
- ・個人の尊厳及び社会連帯に関する意識の高揚

### (2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1組織運営	<p>(1) 関連する情報を適宜適切に収集し、各部会、委員会、教科会を機能させることで、対応策について研究し、具体策を構築します。</p> <p>① 企画・運営委員会の機能を強化し、入学者選抜の在り方など学校経営上の課題や改善策の構築について提案します。</p> <p>(2) 本校独自のキャリア教育やその指導の在り方を中心として、教育活動の改善や新規事業の提案、指導法につい</p>	<p>・会議や委員会の精選やメンバー構成について検討を重ねた</p>	

	<p>て研究開発します。</p> <p>① 総合的な学習の時間の年間指導計画とその指導案について見直します。</p> <p>(3) 学校関係者評価の取組を機能させ、業務改善に向かう組織風土づくりに取り組みます。</p> <p>(1) 日常の職務・研修を通して、教職員の能力の向上を図ります。</p> <p>(2) 小さなグループによる相談や意見交換など課題解決に向けた対話が日常的に行われる仕組みと雰囲気づくりに努めます。</p> <p>(3) 面談・課外・クラブ活動など生徒と向き合う時間確保に努めます。</p> <p>(1) 本校教育活動を全体として生徒、保護者、地域社会に対し効果的な情報発信に努めます。</p> <p>(2) 全ての関係者との関係づくりに努め、地域とともに育つ学校づくりを進めます。</p> <p>(3) 必要に応じ保護者、PTA、同窓会と密に連携します。</p> <p>① 情報の伝え方を検討し、学校行事への参観や参加の呼びかけを強めます。</p> <p>(1) 教職員は日常的に健康管理に努めるとともに業務改善に向け行動します。</p> <p>(2) 過重労働対策報告をもとに、産業医面談を設定し業務改善に努めます。</p> <p>(3) 全体として総勤務時間の縮減に向け継続して取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末と各学期毎に検討の機会をもって改善を図った</li> <li>・学校関係者評価委員会での指摘事項や改善課題については、次年度の取組や指標に反映</li> <li>・研修2～3回／学期実施</li> <li>・定期的な開催以外に、随時関係者数名での共有確認を図る機会をもった</li> <li>・行事予定に面談週間を設けた</li> <li>・学年通信1／月</li> <li>・西高通信1／月</li> <li>・ホームページの随時更新</li> <li>・高校生活入門講座開催</li> <li>・塾対象学校説明会開催</li> <li>・中学校訪問</li> <li>・PTA総会開催</li> <li>・同窓会総会への教職員参加</li> <li>・学年通信や絆ネットの活用</li> <li>・会議、委員会等の内容の精選と充実を図った</li> <li>・産業医面談2／年を定期実施</li> <li>・検討中</li> </ul>	
--	---	---	--

改善課題

- ・ 生徒の学力の定着、向上等に向けた研修の検討と時間確保への工夫
- ・ 業務の精選、平準化と総勤務時間の縮減
- ・ クラス減に伴う組織力の維持及び向上
- ・ 各学年、各分掌間の連携の充実と強化

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業アンケートから授業目標を明確にすることで、生徒の学習の満足度を更に向上させられるのではないかと。</li><li>・進路実現に向けて教職員集団が一丸となって進めていただいていることは、進路決定先や生徒の意識の向上から手に取るように分かるが、生徒一人ひとりの可能性をみいだしながら更なる工夫に努めていただけることに期待している。また、社会へ出て行く前段階としての自主自律といった面で家庭と連携し、更に進めていく必要がある。</li><li>・学校行事等への生徒の参画が着実に進んでいるようであるが、生徒会役員の益々のリーダーシップに期待したい。</li></ul>
---------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・質の高い授業の創造に努め、生徒が、自ら学ぶ喜び、わかる楽しさを実感できるよう授業の充実を図る。</li><li>・目標を明確に示す授業の在り方について研究し、授業の質を高める取組を行う。</li><li>・教科マネジメントを確立することにより、学びの仕組みを十分に機能させ、基礎学力の定着と自ら設定した進路希望を実現するための、確かな学力の定着を図る。</li><li>・教職員は、進路指導にかかわる各種データや情報を整備し活用できるようにする。</li><li>・高い規範意識と公共の場での倫理観の確立を目指す。</li><li>・学校行事・課外活動を通して活力のある西高生の育成を支援する。</li></ul>
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・教職員が直接生徒とかかわることのできる時間を増やせるような年間業務の工夫を行う。</li><li>・質を落とすことのない業務の精選、業務分担の見直しを行う。</li><li>・クラス減にともなう校舎施設が効果的に利用できるよう整備するとともに、施設設備の老朽化への対応を適切に行う。</li></ul>